

2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表

至誠 中学校区

校番 73

福山市立山南小学校

I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

- ・校区スタンダード(①あいさつ・返事②基本的な生活習慣の確立(早寝・早起・朝ご飯③家庭学習の習慣化)の定着を学期毎のアンケート集計による達成率の向上だけでなくとどまらず、取組の質の向上をめざす。
- ・地域との連携を重視した取組を推進する。

III 中学校区

1 めざす子ども像

『至誠の人(地域を愛し、誠実に生きるたくましく子ども)』になろう！  
～ しっかり学び 積極的なあいさつができる いつも元気な児童・生徒 ～

2 研究主題及び主な研究内容

- 【研究主題】思考力と表現力の向上をめざした授業の創造  
～校区スタンダードの定着を通して～
- 【研究内容】・合同授業研究(各学期1回・年3回)  
・至誠中学校区教育推進委員会の開催(各学期1回、年3回実施)  
・校内授業研究への参加(年2回)  
・外国語活動(小6)と英語科(中1)の授業参観(時期と回数は未定)

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒(○成果、●課題)

- 小中学校ともに基礎的な学力の定着は見られる。(知)
- 積極的にあいさつができ、規範意識は高い。(徳)
- 朝食の摂取率や「早寝・早起」など基本的な生活習慣はほぼ定着している。(体)
- 児童生徒の学力が中間層と低位の層に二極化しており、学習習慣の確立に課題がある。
- 困難なことに立ち向かおうとせず積極的に欠け、自尊感情が低い。
- 学年によっては基本的な生活習慣が乱れ、運動能力面は、柔軟性と瞬発力に課題がある。

(2) 授業(○成果、●課題)

- 思考力と表現力の向上をめざし、めあてに対する振り返りと「個→集団→個」の授業展開を意識した授業づくりが定着しつつある
- 「ひろしま」学びのサイクルに沿った、既習事項を生かした授業づくりが定着しつつある。
- 課題発見・課題解決学習を促進し習得・活用・探究の学習をめざした授業展開を工夫する。
- 生徒が主体的・協同的に学習するような単元構成と授業展開を工夫する。

IV 自校

1 学校経営方針

(1) 学校教育目標

よく学び 人間性豊かな たくましい山南っ子の育成

(2) 自校の使命(ミッション)

確かな学力・豊かな心・健やかな体をもつ児童を育成し、保護者・地域に愛される学校となる。

(3) 自校の将来像(ビジョン)

- 思考力・表現力を身に付け、児童が活躍する学校
- 友だちやふるさとを大切に、関わり合いながら成長する、自己肯定感の高い児童
- 心身の健康を保持し、やり抜く力がある児童

2 研究主題及び主な研究内容

思考力・表現力の向上をめざした授業の創造  
～ 付けたい力を明確にした単元指導計画の作成を通して ～

3 現状(成果及び課題)

(1) 生徒(○成果、●課題)

- 基本的な学力は概ね定着している。
- 与えられた課題に対しては、真面目に取り組む児童が多い。
- 自ら問題を解決しようとする力や意欲が、不十分である。
- 勉強が好きと答える児童が少なく、学習に対する意欲が低い。
- 固定化した人間関係の中で、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が不十分。

(2) 授業(○成果、●課題)

- めあてを児童に明確に示すことや、話し合い活動を意識して取り入れる等の工夫が見られるようになった。
- 自力解決から全体で深める授業の流れが、定着してきた。
- 単元や本時で付けたい力が不明確で、中心発問が焦点化されていない。
- 問題解決に必然性をもたせることが不十分で、児童が意欲的に活動することが少ない。

4 めざす授業の姿

- 単元指導計画を見直し、毎時間の付けたい力を明確にする。
- 児童に何を考えさせるかをより焦点化させ、発問を工夫する。
- 導入の工夫や、問題解決に必然性をもたせることで、児童の学習意欲を高めていく

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点目標	年目	中期経営目標	重点 分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	10月1日 □指標にかかる取組状況 ◎改善方策	力 加 評価 評価	達成 評価	2月末 □指標にかかる取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 ◎改善方策	力 加 評価 評価	達成 評価	総合 評価
確かな学力	3	○基礎的・基本的な学習内容の定着と論理的思考力・表現力を育成する。	★ 継続	○「基礎・基本」定着状況調査、全国学力テストの結果の改善を図る。	①つけない力を明確にした単元指導計画作成 ②学び合う学習活動の明確化・焦点化 ③導入の工夫や問題解決に必然性をもたせた学習意欲の向上	△「基礎・基本」定着状況調査(5年)、全国学力テスト(6年)の結果を県平均以上にする。 △国語、算数、理科において単元末テストの正答率を各教科、低90%中85%高80%以上にする。	□校内授業研究活動において、めざす方向性は明確になっているが、日常の授業では課題がある。 ◎より具材化・明確化した授業改善・スキルタイムの充実を行う。	4	3	□「基礎・基本」定着状況調査では、国語・理科 全国学力では、国語Aが県平均以上である。(課題は算数) ・単元末テスト正答率では、低90%・中78%・高79%(低学年のみ達成) ○授業構成や授業の在り方について課題がある。 ◎具材化・明確化した授業改善ポイント提示を行う。 ・つけない力を完全習得 ・学習意欲と表現力の向上 ・導入工夫や問題解決の必然性 【主体的な学習】	4	3	4
豊かな心	3	○ふるさとに愛着と誇りを持ち、規範意識と自尊感情を高め、「関わり」「つながり」を尊重できる児童を育てる。	見直し	○ふるさと学習、道徳、学級活動等を充実させ、あいさつや友達に優しい声かけができる児童を育成する。	①ふるさと学習の充実 ②あいさつ運動などの児童会活動の充実 ③児童面談及びQ-Uアンケートの実施	△「あいさつができる」「返事ができる」という児童アンケートの肯定的評価を85%以上にする。 △年2回のQ-Uアンケートで、学級生活満足群に属する児童70%以上にする。	□あいさつができる、返事ができるの達成度は98%である。学校生活満足度も98%の達成度である。 ◎今後も自己有用感が高められるよう仲間作りを進めていく。	3	3	□児童アンケートより肯定的評価あいさつ88%、返事84%である。学校生活満足度は81%である。 ○学年によってばらつきがあるが、あいさつや友達にやさしい声かけができる児童が増えている。 ◎自己有用感が高められるよう指導の在り方や課題を共有していく。	4	4	4
健やかな体	3	○心身共に健やかな児童を育成し、体力の向上を図る。	見直し	○基本的な生活習慣を定着させるとともに、新体力テストで県平均より下回っている種目を向上させる。	①基本的な生活習慣定着に向けた保護者との連携を図る取組 ②課題となる種目への重点的な取組	△基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯)の定着した児童を80%以上にする。 △新体力テスト県平均達成種目数を55%以上に高める。	□早寝86%・早起き86%・朝ごはん98%の達成度である。 ・校内基準をもとにした「運動の記録」を作成し体力向上に向けた意欲付けを行う。達成度は93%である。 ◎基本的な生活習慣など保護者啓発を積極的に行う。 ・課題である柔軟運動、上体起こしの種目を今後授業や家庭と協力して行っていく。	3	3	□生活アンケートの結果より早寝71%・早起き74%・朝ごはん80%の達成度である。(早寝・早起き 課題あり) ・新体力テスト県平均達成種目数は49%である。(長巻箱掘・上体起こし・50m走 課題が大きい) ○基本的な生活習慣において定着してきている。 ・体育の導入時や校内基準を設けることで体力の向上がみられた。「運動の記録」を活用した。 ◎保護者啓発を今後も継続して行い、児童の規範意識や改善意欲を高めていく取組を行う。 ・今後も引き続き柔軟性や筋力向上を高める取組を行っていく。	4	3	3
力量のある教職員	3	○自ら考え学ぶ授業づくりを、小中一貫教育を通して推進し、教員の授業力向上を図る。	★ 見直し	○付けない力を明確にした単元指導計画をもとに、思考力・表現力の向上をめざした授業づくりを行う。	①講師を招聘した校内授業研究(国語・音楽)の充実 ②校区内授業交流等の小中一貫教育をふまえた授業研究	△国語・算数・理科・音楽の授業について、「授業が楽しい」「授業が分かりやすい」という児童アンケートの肯定的評価を85%以上にする。	□つけない力を明確にすることで、授業が楽しいが89%。授業が分かりやすい104%達成度である。 ◎学年によって差があるのでさらなる授業改善を行う。	2	3	□児童アンケートより肯定的評価 授業が楽しい、国語86%算数75%理科88%(算数に課題がある) 授業がわかりやすい、国語88%算数87%理科93%(全教科目標達成)。 ○つけない力を明確にし、思考力・表現力の向上を目指した授業づくりが、不十分である。 ◎授業の「めあて」を明確に共有させ、協動的に課題解決する意識を高める授業づくりを行う。	4	4	4
市民から信頼される学校	3	○至誠中学校区で組織的に小中一貫教育を推進し、保護者・地域に信頼される学校を作る。	見直し	○校区スタンダード(①あいさつ・返事②基本的な生活習慣の確立③家庭学習の習慣化)の定着に向けた取組の向上をめざす。	①保護者・地域と連携した教育活動の充実 ②保護者・地域への情報発信(便り・HP) ③保護者アンケートの実施	△小中一貫教育及び学校に対する保護者アンケートの肯定的評価を85%以上にする。	□小中一貫教育の肯定的評価は96%である。今後も保護者・地域に信頼される取組を進める。 ◎保護者・地域と連携した活動の推進・情報発信をしていく	4	4	□小中一貫教育の保護者アンケートより肯定的評価は96%である。楽しく学校へ(保護者の声や意見が伝わり)100%。 ○校区スタンダードのあいさつ・返事91%。基本的な生活習慣89%。家庭学習の習慣化83%。(課題は家庭学習の習慣化) ◎保護者・地域と連携した教育活動のさらなる充実を図っていく。【21世紀型スキル&倫理感の育成】自分から進んで取り組む力(主体性)友達と協力する力(協働性)自分らしく表現する力(創造性)みんなのことを考えみんなのために動く力(社会貢献力)	4	4	4

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

[総合評価]

評価	基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった